

# 日経産業新聞

2003年5月20日

1ページ

マイクロフィルム

## 電子文書を変換・記録

### 国際マイクロ写真CDに再出力

マイクロフィルム撮影大手の国際マイクロ写真工業社（東京・新宿、森松義喬社長）は、電子文書やデジタル画像をマイクロフィルムに変換するサービスを始める。またマイクロフィルムに記録された情報を電子文書に変換するサービスも提供する。文書を長期保存する必要のある企業や官公庁向けにサービスを提供、二年後に三億円の売り上げを目指す。

同社のサービスは、デジタル情報を読み取り自動的にマイクロフィルムにレーザーで書き込む独自マイクロボツクス者の書き込み装置を利用する。同装置はマイクロフィルム一本にA4サイズの情報三万二千枚を三五時間記録可能という。またマイクロフィルム

に記録された文書を読み出し、CD-ROM（CDを利用した読み出し専用メモリー）などの媒体に記録するサービスも同時に提供する。この結果、マイクロフィルムと電子文書の両方を利用環境に合わせ自在に利用できるようになる。料金はマイクロフィルムの電子文書化は一枚十、百円、逆の電子文書のマイクロフィルム化は一枚百、二百円になる。

コンピューターで作成された情報を長期保存する必要のある企業や官公庁、地方自治体向けに提供する。公的機関では以前からマイクロフィルムによる長期保存を導入していたが、近年情報処理のデジタル化が急速に進行、紙で出力せずにデジタルで文書を流通させる

仕組みが急速に普及しており、長期保存のための仕組みが求められていた。国際マイクロによると、マイクロフィルムから電子文書を作成するサービスの国内市場規模は年間三百億円程度。同社では将来的に電子文書のマイクロフィルム化サービスも同程度の市場規模に成長すると判断、他社に先駆け参入し市場を開拓する。同社は公文書や文化財のマイクロフィルム化では、宮内庁から受注する能力のある大手四社の中の一家。